茨城県内水試験場

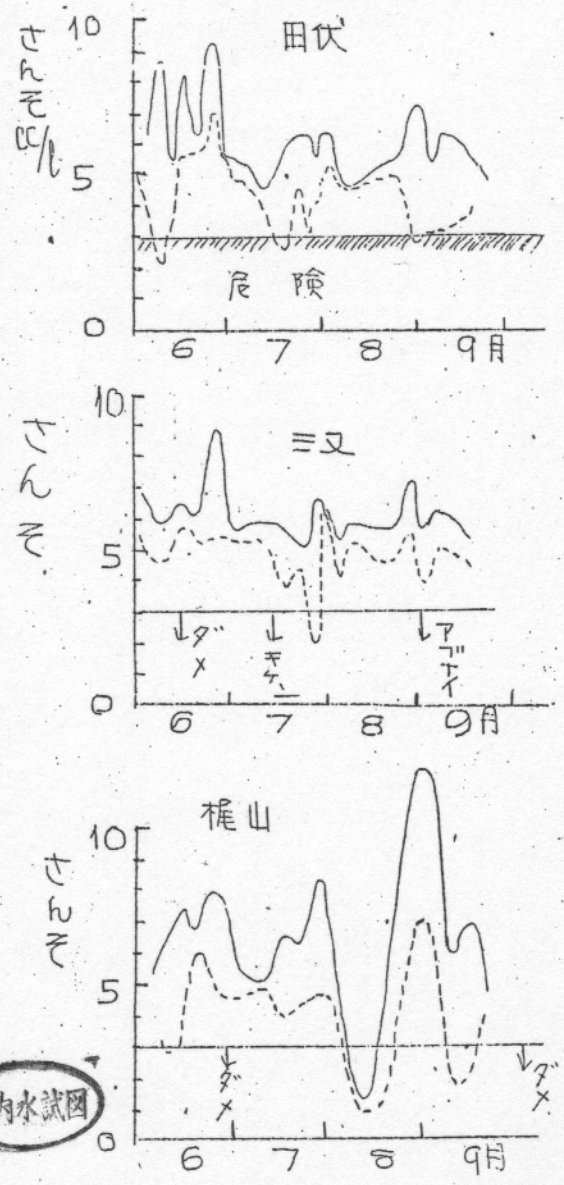
かわら版

No.7
1975・10・2

夏水から秋の水へ

異常な程、きびしかった残暑もやっとおさまったようで、プランクトンもアオコやアナベナの藍藻類、47年以前とは、若干異り、養殖からメロシラやシネドラの珪藻が多くなり、秋の水になったなという感じになって来ました。今年も酸欠が数回発生し、白浜や土浦港附近には、アオコの繁殖が著しく、今年は、ひどかったと見られる方もおいでになるかもしれませんが、高浜入や北浦奥部では、それ程でもなかったといった感じがします。

コイのへい死も4回だけで被害総量も、よくは、わかりませんが48年に比較すると1/50以下・49年に比較しても1/10以下と少なく、一応、環境条件には恵まれた年であったといえるかもしれません。しかし、北浦の一部では、現在もなお、2cc/l以下で給餌が制限されるなどうまくやれない所がでてきたように思われます。酸素が3cc/l以下に低下したのは3回ほど見られ、6月上旬、7月上旬～8月上旬9月上旬で、この頃悪くなるのは、48・49年とも同じようです。地域別に見ると高浜入・田伏・手賀・霞ヶ浦では、7月下旬・5月中旬の2回以外は常に3cc/l以上が保たれました。しかし、底層では飽和以上が維持されることよりは、80%ぐらいの状態が多かったようです。



茨内水試図

ほぼ左図の田伏と同傾向を示すのに対し、湖心・木原・稲敷では7月下旬・5月中旬の2回以外は常に3cc/l以上が保たれました。しかし、底層では飽和以上が維持されることよりは、80%ぐらいの状態が多かったようです。

次に週一回の観測結果から、今年の水質をふりかえって見ましょう。水温は6月までは、やや低目でしたが、7月以降は昨年より高く48年なみで、とくに9月に入って殆んどさがらず9月12日土浦入木原附近では

茨城県内水面水産試験場、土浦市田村町 02995-5-0324